

廈門留学生帰国報告会 日本と中国の架け橋に！

中国・廈門での留学生生活を報告

毎年、宜野湾市では友好都市である中国・福建省・廈門市の廈門理工学院へ留学生を派遣しています。平成24年9月～平成25年8月まで一年間の留学を終えた比嘉美和さん（我如古区出身）の帰国報告会が1月16日（木）、市役所にて行われました。



帰国報告会の様子

比嘉さんは、写真や資料を交えながら廈門理工学院での授業内容や学校行事などの活動を紹介し、廈門での生活の様子を報告しました。「中国の文化や習慣の理解」「新HSK検定（中国語検定）6級の取得」を留学における

る目標としたそうです。

中国の文化や習慣の理解

廈門の寮生活や食事の様子などを紹介。レストランでは一人分の料理を注文するのではなく、注文した料理をみんなで分けて食べるというところに文化の違いを感じたそうです。

また、「授業ではピンイン（中国語の発音表記）が読めるということだけで上級クラスとなり、最初は不安でしたが、前留学生の高江洲さんから紹介のあった現地学生のサポートもあり、無事に課程を終える事ができました」と学校生活を振り返りました。

新HSK検定6級の取得

もう一つの目標としていた新HSK検定6級の取得に向けて、居心地のいい寮ではなく、毎日大学の図書館に通い猛勉強。帰宅後は中国のテレビ番組を必ず見て、さらに勉強したそうです。その努力のいかいもあって、最上級の新HSK検定6級を取得することができたそうです。

帰国後

帰国後は、琉球大学の中国語サークルに入り、また留学生との交流、留学生の生活や日本語学習をサポートするチューター（アドバイザー）や相談を受ける役割登録をしており、帰国後も活発的に中国語を話す機会をつくっているようです。

今後、留学の経験を生かし、活躍することを期待しています！



漢語橋にて(中国語コンテスト)



教室にて(写真左端)



中山路にて

留学を終えての感想

第11期留学生

比嘉 美和



この留学では、廈門だけでなく、湖北や杭州、ハルビンなど色々な地域に足を運びました。中国国内に関わらず、各地域で考え方や習慣に違いが見られ、また、私の「あたりまえ」が異文化の中では「あたりまえ」ではなくなることに気づかされました。そして、その土地の生活を体験することで、留学前の生活を反省し、今後のライフワークを考え直すことができました。そして、やはり「沖繩が好き」ということもあらためて実感しました。就職活動も本格化した今、焦りもあります。留学経験を生かした将来設計をしていきたいと考えます。

今回の留学は、宜野湾市の皆さまの支えもあり、とても安心して勉強することができました。宜野湾市の皆さん、本当にありがとうございました。



☆お知らせ☆

平成26年度の留学生募集は、4月上旬～5月下旬に予定しております。

市報3・4月号および市ホームページにてご案内しますので、是非ご確認ください。

問合せ：市民協働推進課
☎893-4411 内線223